



学校だより

第125号 平成29年7月20日



「安心・安全な学校」をめざして

教頭 佐藤 浩栄

梅雨の合い間の6月30日(金)に今年度2回目の避難訓練を行いました。今回は、津波想定なので、テーマは「協力して、いかに迅速・安全に全員が海拔7.8mの2階に避難するか」というものでした。この訓練は、昨年度から継続して取り組んでいるものです。

この訓練に先立って、6月15日(木)の放課後に、応援職員をまじえたメンバーで肢体不自由教育部門の児童生徒の車いす(人の乗っていない状態で)を、安全に2階に上げる研修も行いました。

肢体不自由教育部門児童生徒の車いすには1台1台に、持ち上げる際手でつかむ位置をすべてビニールテープでマーキングしています。研修の中では、ふだん車いす操作になじみの少ない知的障害教育部門の応援職員にも、手でつかむ位置の把握、移動時の車いすの向き、安定性を図るコツなどしっかり理解を促しました。

実際に、職員を車椅子に乗せ行ったところ「身の安全を運んでいる職員に委ねるしかなく、とても怖かった」と感想を述べていました。そして、子ども達に恐怖心を与えないようにすることが大切であると実感したそうです。

そして、迎えた避難訓練当日、午前10時30分に緊急地震速報受信装置の訓練放送が流れ、教頭の指示により、まずその場で身を守ることや慌てて飛び出さないことを放送、3分後「震度5強の地震」「津波警報の発令」の情報をキャッチし、避難指示を放送しました。1階にいる児童生徒は順次2階への移動避難を行いました。訓練は、終始スムーズに展開され、10分ほどで一階の児童生徒全員が2階に移動し会議室に無事避難することができました。

この間、2階児童生徒は、それぞれの教室で、津波に対する防災教育のビデオを観たり、地震につ



いての授業を受けたりすることで、改めて避難することの大切さを知ることができました。災害時でも、私たち教職員は、児童生徒の身の安全を守り、また安心させなければなりません。日ごろの授業は、安心できる関係の中で行われています。より不安な状況下になればなるほど、そのような関係性が大事になるのではないかと思います。

さて、学校はまもなく夏休みに入ります。長いお休みですから、外出をしたり、地域の施設や事業所で夏のプログラムに参加したりすることもあるでしょう。児童生徒には、ぜひ、今学期、学校で学び、身につけた力を自分らしく発揮してほしいと願っています。そしてまた、9月1日に元気な顔で会えることを楽しみにしています。